



県議会議員
浅川 力三

浅川力三 県政だより

誠意・熱意・創意・勇気を持って「熱き心の郷土愛」

「地域みなさんと、前に向かって！」

暑さ厳しき折、皆様にはお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

2024オリンピック競技大会が7月26日から8月11日までの日程で開かれ、パラリンピック競技大会は8月28日から9月8日まで開催される予定です。パリを舞台にそれぞれの国の国旗を背負った選手たちが、全身全霊を傾けている姿を見ていると、心が熱くなって清々しい気持ちになってきます。

私たち政治家も、常に襟を正し、無私の心で様々な政策課題に立ち向かっていかなければと、改めて感じるところであります。

さて、能登半島地震の現地では、家屋解体、道路網の復旧、港湾の復旧など、現在に至るも様々な難問が立ちあがっています。能登地域は半島であり、インフラが大きな被害にあったことにより、一時陸の孤島になってしまいましたが、四方を山に囲まれた山梨県も、いつ同じような状況になるかもしれません。

私は、常々災害に備えた「災害に強い地域づくり」を訴えてきました。そしてそのためには、「堰堤や護岸の整備」、「道路ネットワークの機能強化」、「インフラの老朽化対策」といった行政主体のハード対策だけでなく、「防災情報の発信」や「家庭や企業での防災対策」など地域全体での取組が重要になると思います。

私は、こうした総合的な取組によって、被害を抑えられるだけでなく、復旧も迅速に進むものと考えています。



一方、新型コロナウイルス感染症は五類に移行しましたが、今年度に入って徐々に感染者が増加しています。

また、原油価格・物価高騰等が続き、経済活動や県民生活に与える影響も大きく、こうした課題にも県全体で取組を進め、社会・経済を活性化していかなければなりません。

私は、6月28日に開かれた県議会6月定例会において、自由民主党・開の国を代表して県政全般にわたる質問を行いました。

市民の皆様には、熱心に傍聴していただき、心から感謝申し上げます。

当日は、二元代表制の一翼を担う議員としての立場から、県政の重要課題である「人口減少危機突破に向けた取組」や、「富士山登山鉄道構想」、「県有林の有効活用」、「少人数教育の推進」について長崎知事の考えを問うとともに、私が全力で取り組んでいる「がん対策のさらなる推進」、「県土強靱化」、「インバウンド観光の更なる振興」、「本県農業の振興」や、「中部横断自動車道長坂以北における県の取組」などの施策の推進について質しました。(2頁～5頁参照)

私は県議会議員として、20有余年にわたり地域の皆様の声を直にお伺いし、施策の実現につなげて参りました。

今後におきましても、強い使命感を持って地域のために何が出来るかを常に考えながら、何事に対しても誠意、熱意、創意、勇気を持って、熱き心で全力を尽くして参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



4月15日 台湾の最大都市である新北市（人口450万人）の市議会を訪問し、副議長と意見交換



6月2日 第77回清里つつじ祭り、台湾の謝社長と記念植樹



4月16日 台湾台中市（人口280万人）副市長と意見交換



6月2日 第77回清里つつじ祭り、台湾の謝社長と記念植樹



7月30日 山梨・忠清北道中学生国際交流事業に参加



5月31日 やまなし観光推進機構総会で副会長としてあいさつ



7月19日 飯田環境省大臣官房審議官に美し森西側遊歩道の整備を要請



7月30日 明野処分場の今後について、県による住民説明会に参加

浅川力三プロフィール

昭和22年7月8日生
昭和41年/須玉商業卒業
昭和45年/拓殖大学卒業
昭和49年/昭和薬科大学卒業
平成10年/高根町議会議員 初当選
平成13年/高根町議会副議長
平成15年/県議会議員 初当選
平成17年/決算特別委員長
平成18年/出資法人調査特別委員長
平成19年/
農政商工観光委員長企業会計決算特別委員長
平成20年/総務委員長
平成21年/第105代県議会副議長

平成23年/第120代県議会議長
平成26年/予算特別委員長
平成27年/リニア関連研究委員会 委員長
平成28年/山梨県監査委員
■地域振興
昭和59年/八ヶ岳青年会議所
創立メンバー 副理事長
平成9年/清里小学校PTA会長
平成16年/清里観光振興会長
平成18年/山梨県雪合戦連盟会長
北杜肝友会 相談役
平成21年/北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長

公益社団法人やまなし観光推進機構 副会長
平成22年/県共同募金会 会長
県緑化推進機構 会長
平成23年/産業技術短期大学校 後援会長
平成25年/NPO法人 ボールラッシュの会 会長
一般社団法人 北杜市観光協会 会長
平成26年/山梨県林道協会 会長
第10回ヤーコンサミット八ヶ岳会長
平成27年/県自転車競技連盟 会長
県都市計画審議委員
平成28年/県立北杜高等学校同窓会 会長
平成30年/東京オリンピック・パラリンピック
山梨県実行委員会副会長

1.人口減少危機の突破に向けた取組について

（浅川）人口減少に対する危機感は、全ての市町村において高まっており、この機をとらえて、オールやまなしで取り組んでいくことが重要と考えるが、人口減少危機の突破に向け、県は市町村とともに今後どのように取り組んでいくのか。

（知事）結婚や子育てなどに関する市町村の先進的な取組への補助制度を、新たに創設することとし、必要な予算を6月補正予算に計上した。

現在、人口減少問題の専門家グループとの共同研究により、市町村ごとに出生率へ影響を及ぼす要因を分析し、その「見える化」に取り組んでいる。

研究から得られた成果については、各市町村と速やかに共有し、それぞれの地域の特性に合った施策立案につなげていく。

2.がん対策の更なる推進について

（浅川）県では、本年3月に「第4次山梨県がん対策推進計画」を策定したが、まず、この計画の基本的な考え方について伺う。

また、がん患者の暮らしやすい社会の実現に向け、どのように取り組んでいくのか。

（知事）第4次計画では、前計画で課題とされた相談支援の充実やライフステージに応じた支援に重点的に取り組み、誰一人取り残さないがん対策を進めていく。

まず、相談支援については、拠点病院でのオンライン相談の導入や、主治医から相談窓口を記載したカードの配布により、確実に相談支援につなげる。

また、がん患者の不安に寄り添えるよう、引き続き、ピアサポーターの養成や、患者同士が体験を共有できるがんサロンを開催していく。

次に、ライフステージに応じた支援については、若年層への教育支援や、将来子どもを授かる希望につなぐ妊孕性温存療法への助成を行っている。

また、がん患者が働き続けられるよう、企業の求めに応じて社会保険労務士やがん経験者を派遣し、柔軟な勤務制度の導入を促進していく。

3.富士山登山鉄道構想の推進について

（浅川）知事は、富士山登山鉄道構想について県民との対話を重ねているが、今後、富士山登山鉄道構想についてどのように進めていくのか。

（知事）富士山登山鉄道構想の推進に当たっては、昨年秋から県内全市町村を対象に住民説明会を開催し、私が直接県民の皆様の声を伺った。

更に6月11日からは、主に富士北麓地域の住民の方々を対象として、座談会形式の意見交換会を実施している。

この意見交換会では、・信仰の対象としての富士山の再興を図るべき・麓から五合目までだけでなく、富士北麓地域の

二次交通の充実を図るべきといった御意見をいただいている。来月9日までに8会場で開催するほか、これ以外にも個別の要請に応じ、御意見をきめ細かく伺っていく。

また、先月いただいた公開質問状に対しては、疑問点に分かりやすく丁寧に回答したところであり、引き続き議論のキャッチボールを行っていく。

加えて、構想に反対されている市民団体の方々にも、真摯に議論を交わせる機会を設けていただくよう呼びかけた。

こうした対話を積み重ねながら、ランド・ビジョンをつくり上げていく過程で、富士北麓にふさわしい新たな交通システムは何か、最適解はおのずと導き出されるものと考えている。

4.リニア中央新幹線の開業に向けた取組について

（浅川）まず、県内工事と再開されたボーリング調査について伺う。

次に、知事は、期成同盟会総会において、研究会の成果として高速交通の将来像について報告したが、こうした研究会の成果も含め、リニア開業に向け、今後県はどのように取り組まれるのか。

（知事）県内のリニア工事は、昨年貫通した第一南巨摩トンネルのほか、南アルプストーン山梨工区では約6割の掘削が進むなど、開業に向け着実に進捗している。

一方、静岡県より示されていた県境付近の掘削による水の流動の懸念を解消すべく、本県がJR東海と静岡県に働きかけ、先日、三者合意を結んだ。

これにより、静岡県の懸念にも応えつつ、県内区間のボーリング調査やそれに続く先進坑・本坑掘削工事が円滑に進められることとなった。

ボーリング調査は、先週末時点で、県境より339mの地点まで、湧水量などに大きな問題もなく、順調に進んでいる状況となっている。

先日は、沿線自治体による期成同盟会の総意として、本県提案による研究会でまとめた高速交通の将来像が承認され、国やJRなどへ要望を行った。

この将来像の実現によりもたらされる効果として、まず1点目は、リニアと高速道路などの連結により、名古屋～山梨～軽井沢といった新ルートが生まれ、人の流れが活性化し、地域間移動の利便性が向上する。

2点目は、リニア開業に伴い東海道新幹線に余裕が生じることで、静岡県内の停車本数増加や空港への新駅設置など、東海道新幹線沿線の利便性が向上する。

こうしたリニア開業後の具体的なメリットの発信を静岡県と連携して行い、静岡県民にメリットを感じてもらうことで、一日も早い全線開業が実現されるよう、沿線自治体の牽引役を担っていく。

5.県土強靱化の取組について

（浅川）県では、南海トラフ地震等の大規模自然災害に備えるため、本年3月に「山梨県強靱化計画」を策定したと承知しているが、能登半島地震や激甚化・頻

発化する近年の災害を踏まえ、県土強靱化にどのように取り組んでいくのか。

（知事）県では、山梨県総合計画の「ふるさと強靱化」政策に基づき、新たな強靱化計画を策定することとし、本年3月に1年前倒しで見直しを行った。

見直しに当たっては、人命保護や県民財産の被害最小化、迅速な復旧復興を図るため、特に3つの取組を推進することとした。

第一に、県民の生命と財産を守るため、河川・ダム・砂防・治山などの防災インフラの整備と維持管理の充実・強化を着実に推進する。

第二に、災害発生時においても交通・エネルギーなどの機能が安定して発揮できるようライフラインを強化する。また、エネルギーについては、地域マイクログリッドなど災害に強い自立・分散型エネルギーシステムの普及を推進する。

第三に、災害時の円滑な避難所運営のための市町村と住民が連携した訓練や、外国人住民に対し多言語による防災情報を提供し、地域の防災力を強化する。

更に、能登半島地震から得られた知見を踏まえ、木造住宅の耐震化について啓発を強化し、耐震診断の受診を促すとともに、耐震改修できるよう補助制度を拡充し、耐震化を加速させていく。

また、通信が途絶した場合に備え、災害の影響を受けにくい衛星インターネットサービス「スターリンク」を導入し、情報収集体制の強化を図る。

6.山梨県こども計画について

（浅川）子供を取り巻く環境が多様化・複雑化する中で、「山梨県こども計画」の策定について、今後どのように取り組むのか。

（子育て支援局長）補正予算では、母子世帯の母親などを念頭に置き、女性をデジタル人材として育成し、正規雇用化に向けて支援を行うモデル事業を計上している。

新たに策定する計画では、働き方改革や男性の育児参加促進などの子育て環境の整備や、子どもの貧困対策に力を入れて取り組む必要があるが、調査結果から得られた課題が多岐にわたることから、今後、市町村や保育関係者、医療・企業・教育などの幅広い分野の方々で議論を重ねていく。



この議論によって発揮される集合知により、成長過程に応じた子ども施策、子どもの権利や貧困対策など、効果的な施策を計画に盛り込んでいく。

更に、具体的な数値目標を掲げ、データに基づきPDCAサイクルを回すことで、効果検証・進捗管理を徹底し、計画の実効性を高めていく。

7.県有林の有効利用について

(1)未利用地の解消と有効利用などについて

（浅川）山梨県恩賜県有財産管理条例施行規則の中で、未利用地の発生防止及び有効利用を実現するため、どのような制度が構築されたのか。

また、県では、県有林の未利用地の解消に向けて、4月から公募手続を開始していると承知しているが、現在の手続の状況及び今後の取組について伺う。

（林政部長）今回の規則改正では、未利用地に関しては用途を限定せず、営利事業にも門戸を開くこととしたが、地元の理解が得られないような利用を認めないなど、無制限に営利事業を許容するものではない。

特に、学校寮区画は、これまで利用者が維持してきた静穏な環境を守るため、同地区の利用者団体の同意を必須の条件としている。

一定の制約はあるが、今後は用途が大幅に拡大されたことにより、利活用の促進が期待できる。

次に、未利用地の公募状況及び今後の取り組みについては、今回、未利用地38箇所について利用希望の募集を行い、これまでに15箇所について、利用に係る諸条件の確認などの問い合わせを受けた。

このうち、利用に向けて具体的な希望が寄せられた未利用地については、今後入札手続を行い、速やかに貸付先の選定を進めるとともに、利用希望がなかった未利用地については、ディベロッパーからその活用を阻む原因について意見を聴取するなど、活用ニーズの掘り起こしに努めていく。

(2)県有林を含めた清里地区全体の活性化に向けた取組について

（浅川）官民が一体となって清里地区の再興を図るべきと思うが、そこで、官民が連携した清里地区全体の活性化に向けた取組について伺う。

（知事）清里地区は、四季折々の自然景観に加え、牧場や芸術施設、高原野菜など豊富な地域資源に恵まれたリゾートエリアであることから、その資源を磨き上げ、上質な空間として創造できれば、かつての一時的ブームとは異なる賑わいを取り戻し、エリア全体の活性化が図られると考えている。

県では、現在、富士北麓をはじめ県内全域で、各地域が持つ資源を最大限活用して、高付加価値化を図る取り組みを進めているが、そのうち峡北地域では、小淵沢エリアについて、北杜市及び事業者や団体の皆様からの要望に基づき、振興に向けた取組を進めている。

清里地区についても、地元の関係者や行政が一体となって、そのエリアのあるべき姿について議論していく必要があることから、県としても、議論の場に加わり、地元の意向を聞きながら、清里地区の高付加価値化に努めていく。

8.メディカル・デバイス・コリドー構想の更なる推進について

（浅川）メディカル・デバイス・コリドー構想の更なる推進に向けて、県ではどのように取り組んでいくのか。

（知事）これまでの取組により、参入企業は71社から167社へと増加、支援企業の生産額は300億円超の大幅な伸びとなった。

支援企業の中には、部材供給を超えた大型の受注案件を獲得する企業や、更なる受注増に対応するべく、工場拡張などに踏み切る企業も出てきている。

そこで、県では全県ファウンドリー化という新たな旗印を掲げ、完成品やユニット製品の製造受注への支援を強化することとした。

また、この分野における経済効果の拡大を目指すうえで、世界シェアの約5割を占める米国は大変魅力的な市場である。昨今の円安も追い風に、意欲的な企業を集中的に支援することにより、いち早く成功モデルを創出し、より大きな市場からの利益獲得を目指していく。

9.インバウンド観光の更なる振興に向けた取組について

（浅川）訪れた場所での新鮮な体験や本県の各地域が持つ魅力を紹介すること、加えて、生活習慣・宗教的理由を考慮した環境を整えることが、多くの外国人観光客に選ばれる観光地・山梨に結びつくと思うが、今後のインバウンド観光の更なる振興に向け、県はどのように取り組んでいくのか。

（知事）外国人観光客の目線で観光地の魅力を見つめ直すことは、今後の観光振興にとって極めて重要である。そこで、レンタカーを利用する外国人観光客の目線に立ち、県内各地の魅力的なスポットや最適な移動ルート、多言語表記の有無などの情報を提供していく。

また、食習慣や価値観の多様性に富む外国人観光客が増加することを見込み、今年の夏、ベジタリアンの方などに対応する県独自の認証基準を設け、適合した食事や商品への認証マークの付与を通じ、広く周知を図っていく。

今後は、食文化の専門家によるセミナーや認証取得を目指す事業者への個別支援により、食を通じた外国人観光客へのサービス向上を一層進めていく。

10.本県農業の振興について

（1）県産果実のブランド力の強化について

（浅川）山梨県が国内外の人々から永く選ばれる産地となるためにも、サンシャインレッドを始めとするオリジナル品種の早期産地化とブランド力の強化が重要と考えるが、県では、県産果実のブランド力の強化に向けてどのように取り組むのか。

（農政部長）本県が国内外の消費者に選ばれる果樹産地となるためには、オリジナル品種の早期産地化とブランド力の強

化が重要であり、早期産地化に向けては、JAと連携して改植を強力に推進するとともに、改植に必要な苗木の安定的な生産と供給を支援している。

特に、サンシャインレッドは生産者の期待も大きく苗木の需要が高いことから、苗木の生産体制を強化し、本年度は供給を約2倍に拡大する。

また、ブランド力の強化については、県産果実のおいしさを支える生産者の匠の技やこだわりをストーリーにして、国内だけでなく海外に向けても動画で紹介していく。

加えて、上質な美食体験を県のOUNDメディアで発信することも組み合わせ、県産果実のブランド力の強化を図っていく。



（2）県産ブランド米の振興について

（浅川）本県の米産地を維持・発展させるためには、更なる需要の拡大と温暖化などの課題に対応した生産体制の強化を進めることが重要だが、県では、県産ブランド米の振興について、どのように取り組んでいくのか。

（知事）現在、本年12月に開催されるお米の国際大会で県産米が更に高い評価を得られるよう、出品意欲のある生産者に対して、食味の向上につながる栽培指導を行っている。また、JAや県内宿泊施設と連携し、新米の時期に県産米キャンペーンを実施することで、観光客にこの美味しさを発信していく。

次に、温暖化などに対応した生産体制の強化については、高温でも安定生産が可能で、品質や食味に優れる「にじのきらめき」を奨励品種として指定した。

昨年度、栽培マニュアルに基づき、JAと連携して普及を進めた結果、本年度の作付見込面積は約5倍に拡大している。

更に、本年度から新たに「にじのきらめき」などの高品質米の導入に際し、必要な機械や施設整備を支援することとしている。

（3）甲州牛の販路拡大について

（浅川）甲州牛の販路を拡大していくため、県は今後どのように取り組んでいくのか。

（農政部長）甲州牛の販路拡大は、生産者の所得向上を図るためにも、極めて重要であり、これまで県は、甲州牛の需要に対応するため、優良な受精卵移植による和牛子牛の増産など、生産拡大を図ってきた。

併せて、国内需要の拡大を図るため、県内宿泊施設で甲州牛を提供するキャンペーンを展開し、観光客を中心に積極的なPRを行ってきた。

また、台湾をはじめアジア地域に向けた甲州牛の販路拡大は重要な課題であるが、台湾においては、令和元年度に処理施設の基準が厳格化されたため、県内からは輸出ができない状況が続いていることから、輸出の再開に向けて、海外の基準に適合する食肉流通センターの施設整備について、専門家を交えて関係者とともに検討を進めている。

併せて、海外における甲州牛のブランド力を高めるため、外国人観光客に対し、食体験の機会創出などによる新たな需要拡大にも注力していく。

11.中部横断自動車道長坂以北における県の取組について

（浅川）議員連盟の活動が少しでも貢献できたのではないかと自負しているところだが、中部横断自動車道の長坂から八千穂間の早期事業化に向けて、県はどのように取り組んでいくのか。

（知事）県では国からルート案の送付を受け、昨年10月に甲斐・韮崎・北杜の3市において、詳細な道路位置などを示した都市計画原案の説明会を開催した。

更に、中部横断自動車道の整備への理解促進のため、地域とのコミュニケーションが重要と考え、本年1月に北杜市で対話形式による説明の場を設けた。

大きな会場での説明会と異なり、ルートに関する疑問や不安にも個別に対応したことで、参加者から理解がより深まったとの多数の声をいただいた。

引き続き地域への丁寧な対応に努めつつ、都市計画や環境影響評価の手続きを着実に進め、関係機関と連携して一日も早い事業化に向け取り組んでいく。

12.「やまなしモデルP2Gシステム」の導入拡大に向けた取組について

（浅川）水素エネルギー社会の実現に向け、国が打ち出す施策を活用し、システムの導入をより一層、積極的に展開していくことが重要と考えるが、「やまなしモデルP2Gシステム」の導入拡大に向けて、どのように取組を進めていくのか。

（知事）やまなしモデルの新たな導入先として先月、住友ゴム白河工場が決定し、今月にはコーサーと南アルプス工場への将来の導入も見据え合意書を交わした。一方、本格的な水素社会実現に向けては、グリーン水素の価格がLNGなどの既存燃料と比べ、高いことが大きな課題となっていることか

ら、国に支援措置を要望してきたが、こうした取組が実を結び、先般、水素社会推進法が成立し、この価格差を埋める支援制度が創設された。

現在、本県では、やまなしハイドロジェンカンパニーYHCによるやまなしモデルの導入拡大を図るべく、この夏に予定される公募に向け準備を進めている。

具体的には、YHCと共同でサプライチェーンの構築を目指すパートナー企業を公募し、応募があった4件を対象に詳細な事業計画の検討を行っている。

また、支援の条件として25年以上の長期にわたる事業継続が必要となることから、YHCの経営基盤の強化について共同出資者などと協議を進めている。

13.少人数教育の推進について

（浅川）少人数学級の導入によりどのような効果が得られているのか。

また、今後の少人数教育の方向性について、どのように検討を進めていくのか。

（知事）導入した学校の調査では、自分の夢があるかなどの自己肯定感に関する質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が高いという結果が得られている。

また、多くの教員からは、25人学級の導入により業務が軽減された、子どもたちに向き合う時間が確保できるようになったなどの回答があった。

一方、少人数教育の更なる推進に向けては、教員確保などの検討すべき課題が存することも、また事実であることから、本年5月には、有識者などで構成する少人数教育推進検討委員会を設置し、5年生以降の少人数教育の方向性について検討を始めた。

この委員会では、教員不足が懸念される中、少人数教育推進に向けての課題を乗り越えるための方策の検討を行うこととしている。

明野処分場、県が来年度以降も職員 の派遣を継続！

7月5日（金）の土木森林環境委員会において、明野処分場の維持管理について、約束の基準になるまでは事業団が責任をもって行うよう県の考えを質したところ、環境・エネルギー部長からは「明野処分場は、県が最後まで責任をもって維持管理していく。住民の健康、周辺環境の保全を第一に、今後とも適切に対応していく。」との回答がありました。





6月13日 中国・日本100年企業研修団



6月24日 12月に開催されるお米の国際大会の名誉会長就任を知事に依頼



6月1日 自民党本部の茂木幹事長と中部横断自動車道と中山間地域の問題について要望



6月1日 Mt.富士ヒルクライムに9000人以上の皆様をお迎えして前夜祭を開催



6月2日 Mt.富士ヒルクライムのスタート!!



6月23日 雨の中、山梨県自転車競技大会で会長として激励



5月25日 100人以上の皆さんが参加して、美し森の環境整美



6月2日 つつじ祭り清里ウォークで会長としてあいさつ



500人以上の参加を得て、雨の中での準備体操



7月17日と18日の2日間、東京日本橋で夏に向かっての観光キャンペーン



7月22日 県立射撃場についての、県、北杜市、韮崎市の説明会



7月22日 猟友会の皆さんと県立射撃場の現地調査



7月7日 東京同窓会総会で、北杜高校同窓会長としてあいさつ



5月2日 北杜市で一番早いこびとの田植えに今年もお伺い



5月31日 大泉町谷戸地区を現地調査



5月31日 大泉町西井出地区を現地調査



6月26日 小淵沢町下笹尾地区を現地調査